



エコアクション 21 環境経営レポート

第 55 期 2021 年 5 月～2022 年 4 月



白石鉄工株式会社

令和 4 年 5 月 31 日



目次

● 1	組織の概要	1
● 2	認証・登録範囲及び組織図	2
● 3	環境経営方針	3
● 4	運用期間及び中期環境経営目標	4
● 5	当期間の主要な環境経営計画	5
● 6	環境経営計画の実施体制	6
● 7	目標の実績	7
● 8	環境経営計画の取組結果とその評価	11
● 9	問題点の是正処置及び予防処置の結果	14
● 10	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	15
● 11	環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	15
● 12	代表者による全体評価と見直しの結果	15



1 組織の概要

(1) 名称及び代表者

白石鉄工株式会社

代表取締役社長 本田 和明

(2) 会社設立年月日 1961 年 9 月

(3) 資本金 4,800 万円

(4) 所在地

本社工場	北九州市小倉南区新曽根 1 番 1 号
第二工場	北九州市小倉南区新曽根 5 番 31 号
新門司工場	北九州市門司区新門司 3 丁目 67 番 47 号
新門司機工センター	北九州市門司区新門司 3 丁目 4 番
工事部	北九州市小倉南区新曽根 1 番 28 号
大分事業所	大分県大分市牧 1 丁目 7 番 16 号 河野ビル 1F

(5) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 江藤 俊彦（取締役 製造本部長）
TEL 093-472-3411（本社工場）

環境管理担当者 白石 嘉乃子（取締役 管理本部長）
TEL 093-472-3411（本社工場）

(6) 事業内容

製造業（金属製品、鋼構造物の製作）

(7) 事業規模

売上高 1,980 百万円（令和 3 年 5 月～令和 4 年 4 月）

	本社工場	第二工場	新門司工場	新門司機工センター	工事部	大分事業所
従業員数	55	24	27	2	10	4
延べ床面積	3,190 m ²	4,380 m ²	2,390 m ²	2,130 m ²	520 m ²	40 m ²

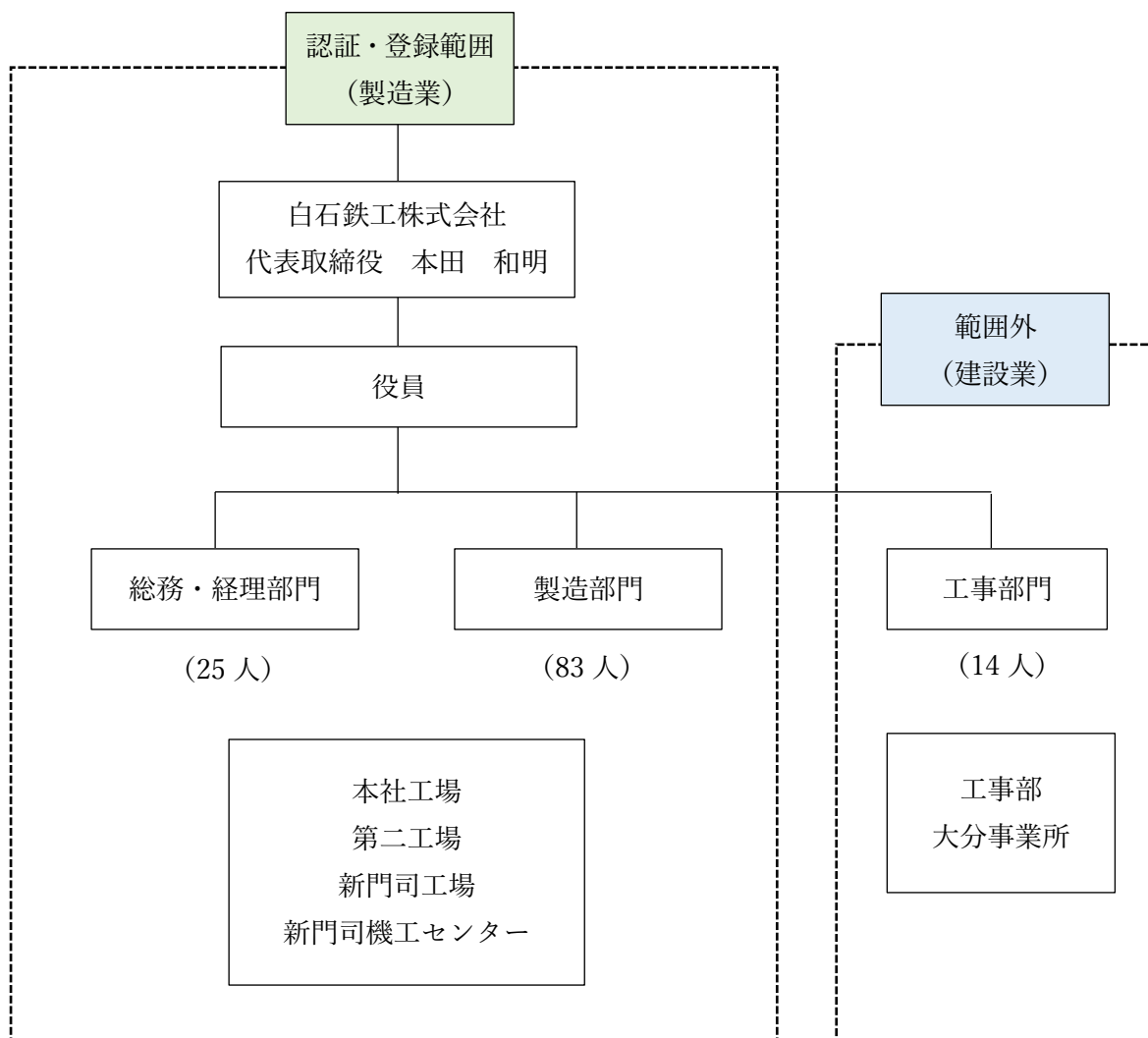
(8) 事業年度 5 月～4 月

（今回の経営レポートの対象期間は、令和 3 年 5 月～令和 4 年 4 月）



2 認証・登録範囲及び組織図

- (1) 対象事業者名 白石鉄工株式会社
- (2) 対象事業活動 製造業（金属製品・鋼構造物の製作）
- (3) 対象事業所 本社工場
第二工場
新門司工場
新門司機工センター
- (4) 対象外事業活動 建設業（鋼構造物工事業）
- (5) 対象外事業所 工事部・大分事業所
※ただし、令和6年に対象事業所に拡大する





3 環境経営方針

基本理念

白石鉄工株式会社は、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、鋼構造物の製作を通じて環境への負荷低減に積極的に取り組めます。

そのため環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、次世代に承継できる環境の実現を目指します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守するとともに、環境負荷の低減に取り組めます。以下の行動指針に基づき、環境経営目標及び環境経営活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

1. 二酸化炭素排出削減に取り組めます。
使用エネルギー（電気、ガソリン、軽油）の削減に努めます。
2. 廃棄物の削減
板取りなどを工夫し、材料ロスを低減させ、廃棄物の削減に努めます。
書類の電子化を推進するなど、紙使用量の削減を図ります。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量を削減します。
4. 環境負荷の低い機械（騒音・振動・省エネ）を積極的に使用します。
5. リサイクル品などの環境に良い商品の購入・採用に努めます。
6. 水力発電、風力発電、バイオマス発電の再生可能エネルギー関連設備工事の受注を通し、温室効果ガス削減に貢献します。
7. 事業活動に関連する安全衛生及び環境関連法規等を遵守します。
8. ISO 9001の活動により、品質の向上を図り、不適合品・クレームの削減に努めます。
9. 5S活動を推進し、品質と生産性を向上させることによって、環境負荷低減を目指します。
10. 安全衛生活動を通じ、安全で働きやすい環境の構築に努めます。
11. 地域社会との環境コミュニケーションを良くし、地域の環境保全に努めます。
12. この環境経営方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育・訓練を行い全社員の環境保全に向けた意識の向上に努めます。
13. 基本理念を実現するため、環境経営の継続的改善を誓約します。
14. この環境経営方針は広く一般に公表します。

令和3年1月1日制定

令和4年1月1日改定

白石鉄工株式会社
代表取締役社長 本田 和明



4 運用期間及び中期環境経営目標

項目	単位	基準	目標		
		53 期 2019/5～2020/4	55 期 2021/5～2022/4	56 期 2022/5～2023/4	57 期 2023/5～2024/4
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	117,439	115,677 (-1.5%)	115,090 (-2%)	114,503 (-2.5%)
電力使用量の削減	kWh	5,205	5,127	5,101	5,075
ガソリン使用量の削減	ℓ	21,682	21,357	21,248	21,140
軽油使用量の削減	ℓ	17,408	17,147	17,060	16,973
灯油使用量の削減	ℓ	1,893	1,865	1,855	1,846
液化石油ガス使用量の削減	Kg	5,193	5,115	5,089	5,063
一般廃棄物排出量の削減	Kg	7,425	7,314	7,277	7,239
産業廃棄物排出量の削減	Kg	57,430	56,569	56,281	55,994
水使用量の削減	m ³	2,878	2,835	2,820	2,806
コスト削減・節約 節電運動		—	継続	継続	継続
安全衛生活動の 継続		—	継続	継続	継続
5 S 活動の継続		—	継続	継続	継続
CSR 活動の実施		—	活動実施	継続	継続
不適合製品・クレームの 3 割削減	件数	29(54 期)	21	15	11
製品・サービスに関する事項		—	継続	継続	継続

* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2019 年度の調整後排出係数 0.371kg-CO2/kWh を用いた。

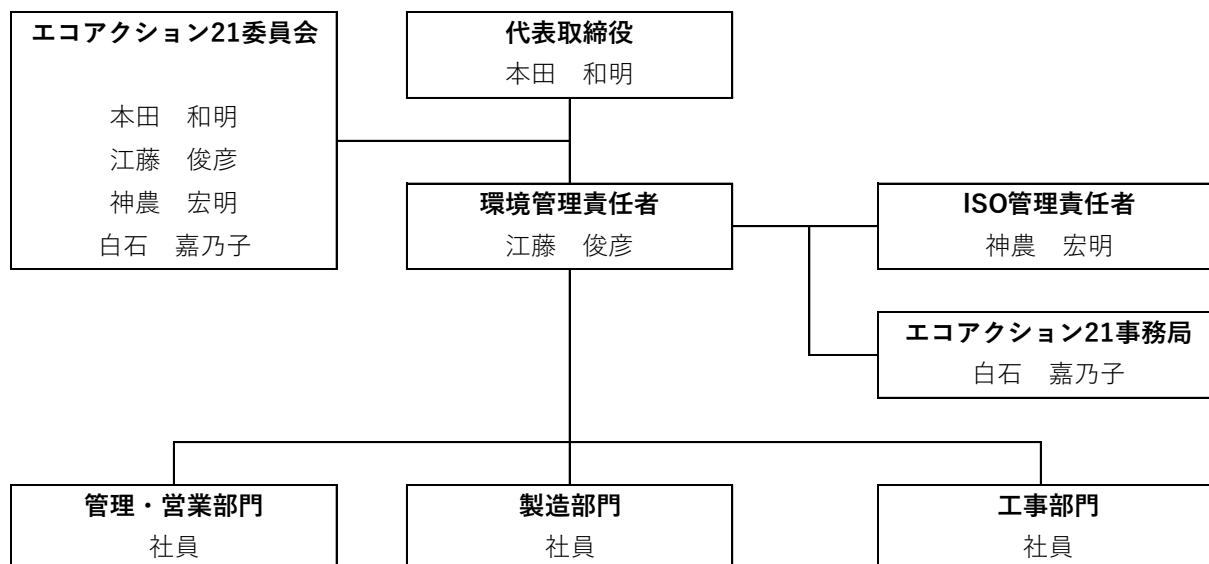


5 当期間の主要な環境経営計画

- (1) 電力使用量の削減
 - ・未使用区域の消灯、未使用時の消灯、室温管理の徹底
- (2) 燃料使用量の削減
 - ・エコドライブの徹底、効率のよい作業管理、未使用時の管理
- (3) 廃棄物総排出量の削減
 - ・書類の電子化、材料ロス削減
- (4) 水使用量の削減
 - ・適正使用を心掛ける
- (5) コスト削減
 - ・毎月の各使用量を把握し、削減に繋げる
- (6) 安全衛生活動の継続・推進
 - ・安全衛生委員会の下、パトロールの実施や安全衛生教育の実施を行う
 - ・健康診断、産業医パトロールの実施等の健康管理活動を行う
- (7) 5 S 活動の継続・推進
 - ・5 S 委員会の下、週1回の職場一斉清掃の実施、パトロールの実施を行う
- (8) CSR 活動の実施
 - ・地域貢献を積極的に行う
 - ・社内ニュースやホームページ等で活動を社内外に発信していく
- (9) 不適合・クレームの削減
 - ・不適合製品・クレームの発生件数を前年の7割以下に抑えるように努める
- (10) 製品・サービスに関する事項
 - ・環境関係設備工事や新エネルギー事業関連の受注活動を積極的に行う



6 環境経営計画の実施体制



氏名・部門	所属（役職）	役割・責任・権限・使命
本田 和明	代表者	* 全体の統括、経営における課題とチャンスを整理・明確化し、環境方針の設定、実施体制の構築、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
江藤 俊彦	環境管理責任者	* 全体の把握／環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
神農 宏明	ISO管理責任者	* 品質マネジメントシステムとエコアクション21の環境マネジメントシステムを関連付け、運用しその状況を社長に報告する
白石 嘉乃子	エコアクション21事務局	* エコアクション21文書及び記録類の作成・維持・管理
エコアクション21委員会	エコアクション21委員会	* 3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況および活動計画の実行状況を審議する
本田 和明	営業部門 工事部門	* 営業部門・工事部門の環境管理
江藤 俊彦	製造部門	* 製造部門の環境管理
白石 嘉乃子	管理部門	* 管理部門の環境管理



7 目標の実績（全社）

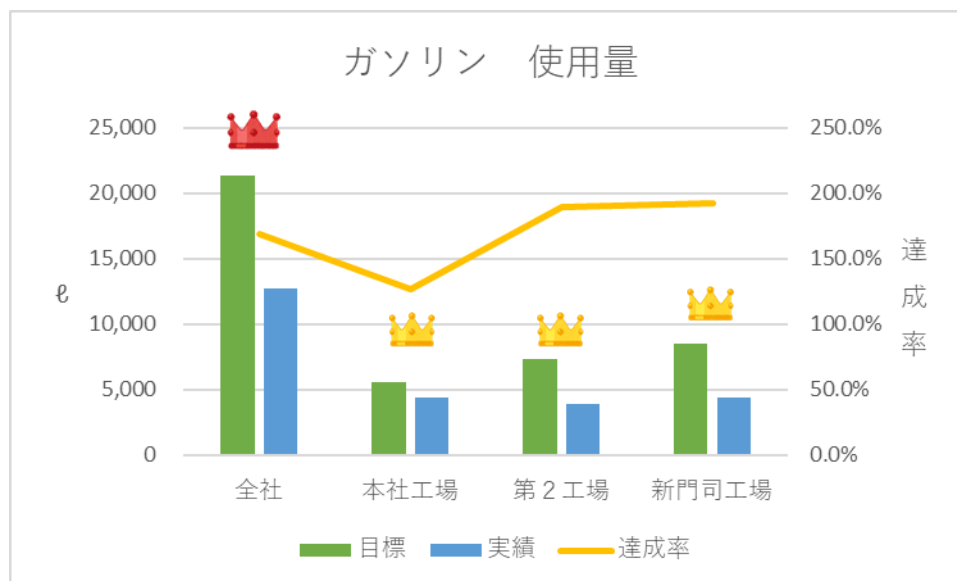
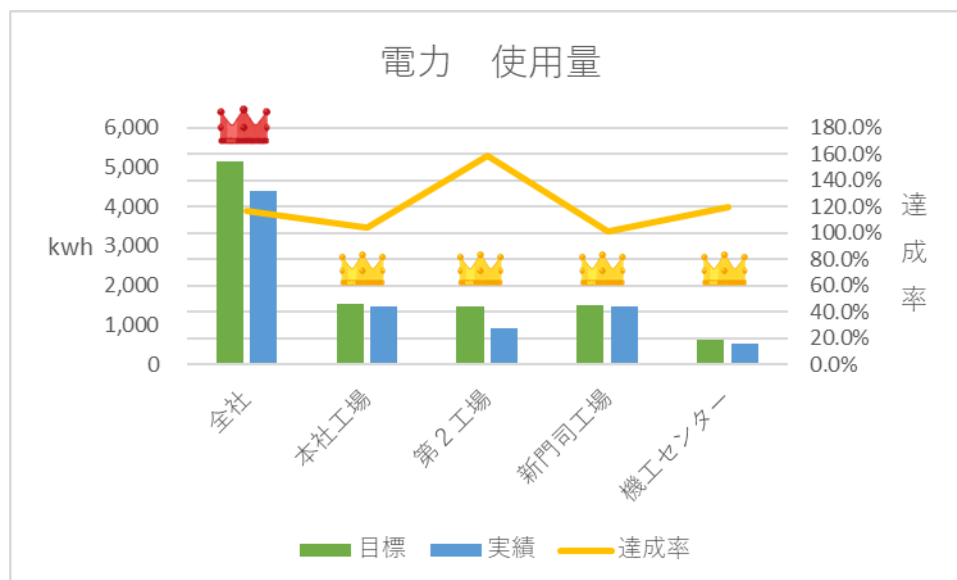
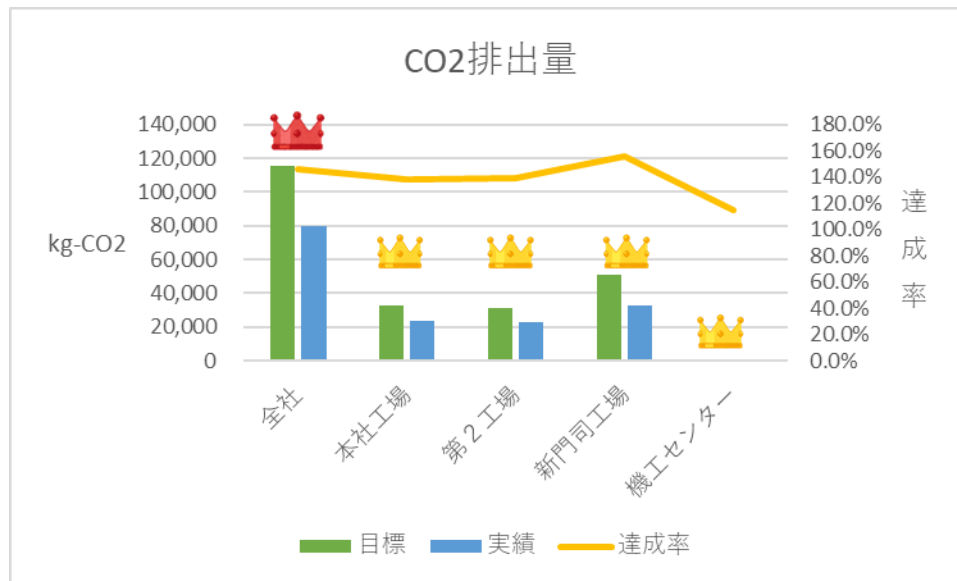
項目	単位	目標	55 期実績 2021/5～2022/4	
			達成率	
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	115,677	79,417	146 %
電力使用量の削減	kWh	5,127	4,410	116 %
ガソリン使用量の削減	ℓ	21,357	12,658	169 %
軽油使用量の削減	ℓ	17,147	12,184	141 %
灯油使用量の削減	ℓ	1,865	2,312	81 %
液化石油ガス使用量の削減	Kg	5,115	3,741	137 %
一般廃棄物排出量の削減	Kg	7,314	7,933	92 %
産業廃棄物排出量の削減	Kg	56,569	61,700	92 %
水使用量の削減	m ³	2,835	3,310	86 %
コスト削減・節約・ 節電運動		—	B	
安全衛生活動の継続		—	A	
5 S 活動の継続		—	B	
CSR 活動の実施		—	B	
不適合製品・クレームの 3 割削減	件数	21	20	105%
製品・サービスに関する 事項		—	A	

* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の 2019 年度の調整後排出係数 0.371kg-CO2/kWh を用いた。

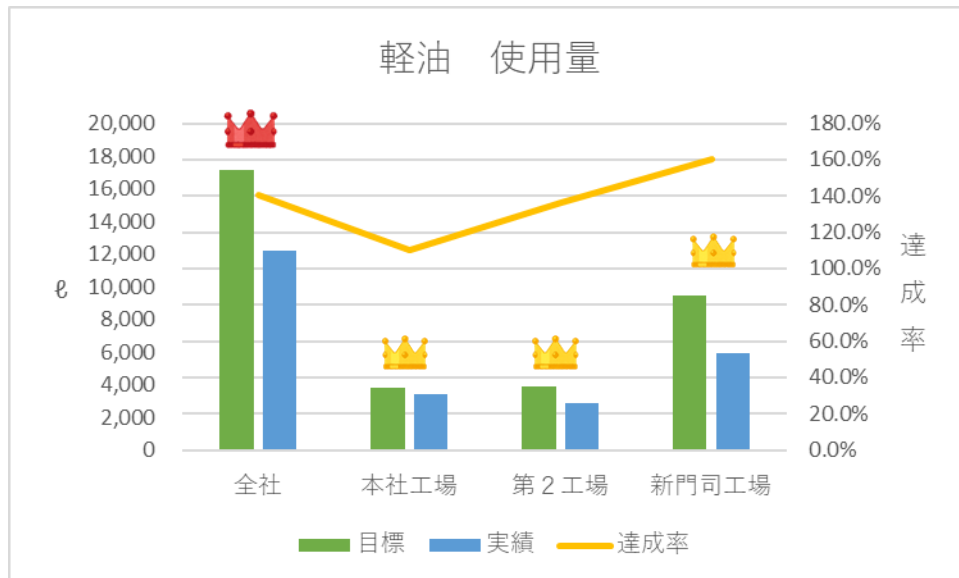
* 取組実績評価の表記 A:良好な実績・B:普通程度の実績・C:活動不足・—:未活動とする。



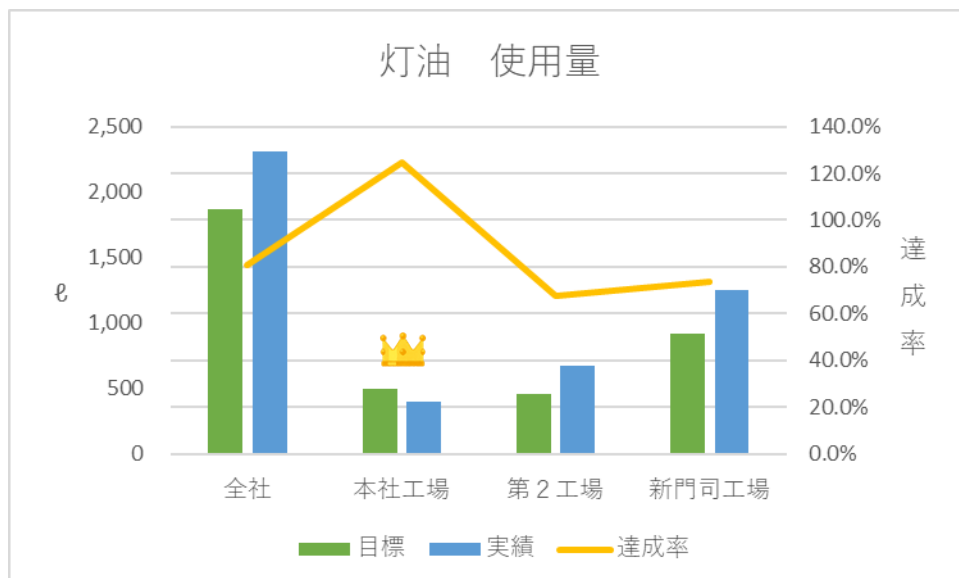
7 目標の実績（工場別・項目別）



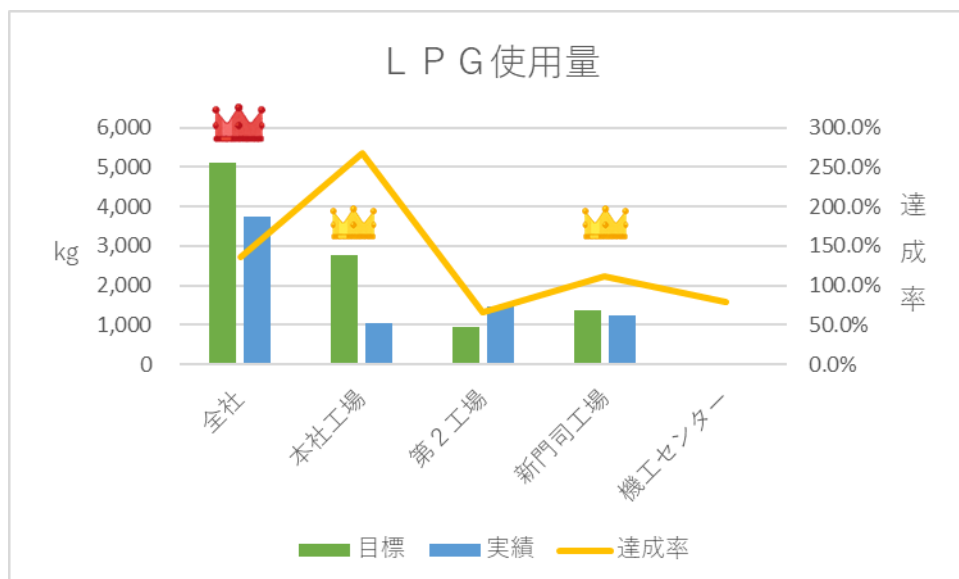
※ 機工センター分は3工場に按分

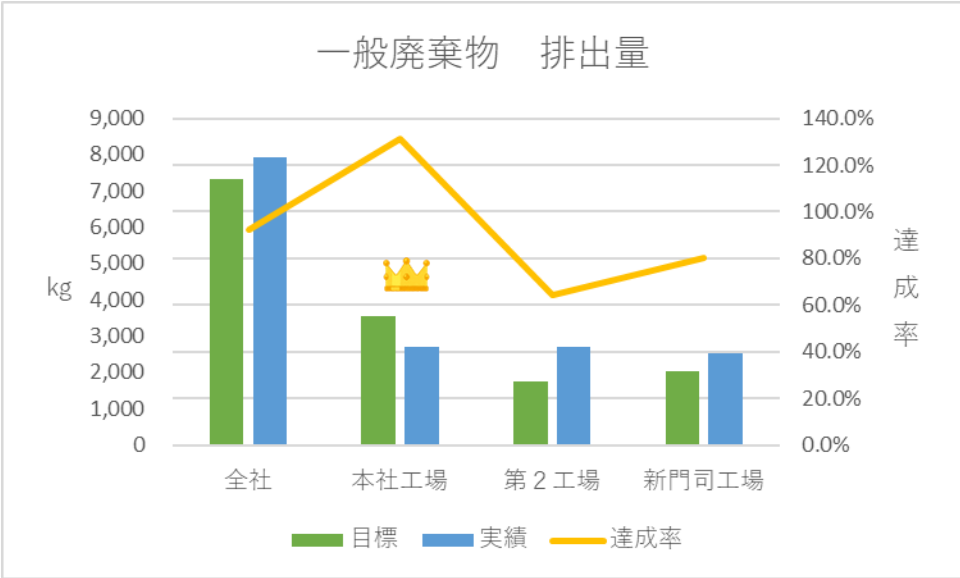


※ 機工センター分は3工場に按分

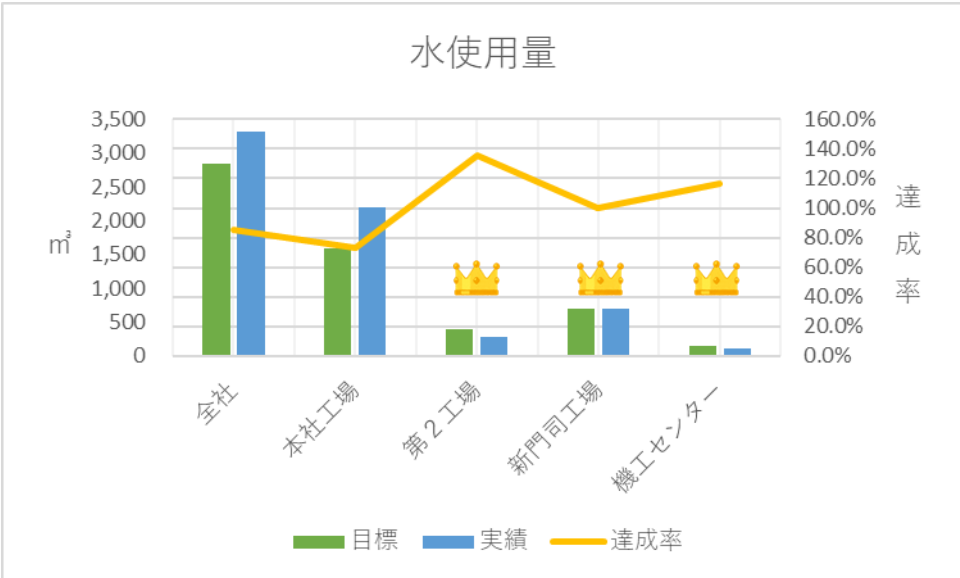
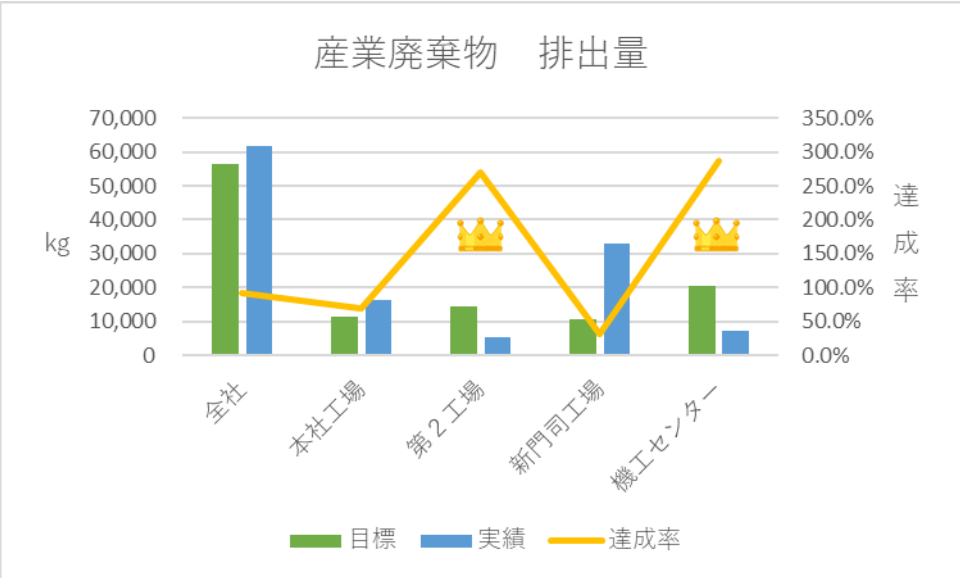


※ 機工センター分は3工場に按分





※ 機工センター分は3工場に按分





8 環境経営計画の取組結果とその評価

(1) 電力使用量の削減

- ・各工場すべて目標数値を達成でき、全社の達成率は116%であった。
こまめな消灯等、これからも一人ひとりの小さな積み重ねを継続していきたい。

(2) 燃料使用量の削減

- ・ガソリン使用量と軽油使用量は、各工場すべて目標数値を達成でき、全社の達成率はガソリン使用量169%、軽油使用量は141%であった。
これからもエコドライブの心がけを続けていきたい。
- ・液化石油ガスの使用量は全社では137%の目標数値を達成できたが、第2工場は66%、機工センターは78%の未達であった。当社は製作過程で重量や大きさ等に応じて横持ち作業する工場が変わる場合があるため、一概に各工場別の目標数値管理が難しいところがあり、使用量が偏ったためと思われる。
- ・灯油の使用量については本社工場が125%の目標達成できたが、第2工場は68%、新門司工場は74%の未達であり、全社でも81%の未達となった。ストーブの台数を増やした事が要因と思われるが、節約を心がける取組を進めていきたい。

(3) 廃棄物総排出量の削減

- ・一般廃棄物については本社工場が131%の目標達成できたが、第2工場は64%、新門司工場は80%の未達で、全社でも92%と目標に一步及ばなかった。取組を見直して削減活動を進めていきたい。
- ・産業廃棄物については第2工場が269%、機工センターが288%と目標達成できたが、本社工場は69%、新門司工場は32%の未達で、各工場間の排出量の差が大きかった。廃棄物に関しても、一概に各工場別の数値管理が難しいところがあり、排出量が偏ったためと思われる。全社でも92%の未達となったので、活動の見直しを進めていきたい。

(4) 水使用量の削減

- ・第2工場は135%、新門司工場は100%、機工センターは117%と目標達成できたが、本社工場が73%の未達で、全社で86%の未達となった。SUS鋼の洗浄やタンク製造の品質検査において、水張試験を実施した影響があると思われるが、他に水漏れがないか等も調査した上、適正使用の声掛けを進めていきたい。

(5) コスト削減

- ・毎月の各使用量を把握し、社内で回覧して数値を意識してもらい、削減に繋げる活動を続けていく。すでに定着している活動だが、形骸化していかないような工夫をして続けていきたい。

(6) 安全衛生活動の継続・推進

- ・月1回の安全衛生教育、安全衛生パトロール、安全衛生委員会を行った。
- ・健康診断、産業医パトロールの実施等の健康管理活動を行った。

安全衛生活動に関しては活発な活動を行えているが、日常点検等慣れによる意識低下もみられるので、工夫しながら続けていきたい。

(7) 5 S 活動の継続・推進

- ・週1回の職場一斉清掃の確実な実施が行われた。
- ・3か月毎の5 S 委員会及び活動報告と5 S パトロールを実施した。

5 S 活動については形骸化が見られるので、取組の見直しを行いたい。

(8) CSR 活動の実施

- ・ホームページに「社会への取り組み」というページをもうけ、地域貢献等の活動を掲載し発信するようにした。
- ・社内向けの広報誌を不定期に発行し、会社が行っている CSR 活動や SDGs 等の環境に関する記事、社内の啓もう活動を実施した。
- ・地域のボランティア清掃活動を行った。

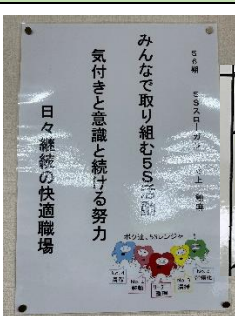
(9) 不適合・クレームの削減

- ・前期(54期)の発生件数29件に対して3割削減の21件の目標を立て実施し、20件の結果となった。発生件数の目標は達成できたが、不適合の内容に関しては、分析・対策などを徹底して行い、次に繋げていけるよりよい仕組みづくりを目指して常に改良に取り組んでいきたい。

(10) 製品・サービスに関する事項

- ・社員の環境に関する知識や意識を高めるため、広報活動を行った。
- ・自社の製品と環境との関わりを全社員で共有していくため、広報活動を行った。

当社の事業活動により生み出される製品が、温室効果ガス削減のための新エネルギー事業を支えていることを社員全員が認識して、日々の活動に誇りややりがいを持って取り組めるよう、広報活動を続けていきたい。

省エネ（節電）の取組	節水の取組
	 
ゴミ減量化・リサイクルの取組	排ガス低減の取組
	
5 S・安全衛生活動の取組	社内広報（CSR 活動・製品サービス）の取組
 	
緊急時訓練（火災・津波避難）	
	
地域貢献（清掃活動）	
	



9 問題点の是正処置及び予防処置の結果

問題点の発生確認日	令和4年5月26日
問題点の項目	55期の数値目標管理項目の実績が揃い、目標未達の項目が判明した ・ 灯油使用量の削減 ・ 一般廃棄物排出量削減 ・ 水使用量の削減
問題点の内容	・ 灯油使用量の削減達成率が80.7% ・ 一般廃棄物排出量削減達成率が92.2% ・ 水使用量の削減達成率が85.6% であった
問題点の発生要因	・ 灯油使用量 … 暖房器具の台数増加のため。 ・ 一般廃棄物 … ゴミの分別（資源ゴミ）が足りなかったため ・ 水使用量 … SUS鋼の洗浄およびタンク製造の品質検査において、 水張試験を実施したため
改善対策の内容	・ 灯油使用量 … こまめな消火を行うようにする ・ 一般廃棄物 … 紙ゴミがかなり混ざっているので、こまめに 分別し、削減に繋げる ・ 水使用量 … SUS鋼の洗浄や水張試験等は必要な使用であったと 思われるが、その際にもムダがないよう点検して 行うようにする
実施のスケジュール	・ 灯油使用量 … 次のシーズンが始まる時に、削減の呼びかけを 行う ・ 一般廃棄物及び水使用量 … 令和4年6月の会議の場で、 各工場長に呼びかけを行う
対策実施の結果確認	令和4年5月末時点で未実施である



10 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

各取組についての活動はすでに定着しているものも多いが、意識が低下しているものも多く、掘り起こしと推進が必要だと思われる。

また今期は全体的に目標を達成できたが、来期は新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、経済活動が拡大していくと思われるので、再度数値を意識した活動の見直しが必要だと思われる。これらを踏まえ、取り組んでいきたい。



11 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無

環境関連法規などの一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律及び、騒音規制法・振動規制法に関して行政への届出の不備が見つかり、適切な対応を行った。また関係当局より、有機溶剤の作業場に関する違反の指摘が一件あったが、適切な対応を行った。

その他の法律の遵守状況を確認した結果、問題はなかった。関係当局及び利害関係者からの訴訟等もなかった。



12 代表者による全体評価と見直しの結果

- (1) 目標に対し未達項目はあるが、エコアクション 21 の活動が浸透した有意義な 1 年であったと判断する。特に北九州 SDG s 登録事業者に選定されたことは、皆の活動が広く評価されたものとして大変喜ばしい。
- (2) 再生可能エネルギー関連設備の大型受注があり、今後も続く見込みであり、丁寧な受注活動を心掛ける。
- (3) ISO90001 の更新監査で、指摘事項ではないが、ISO 活動の形骸化の懸念が表明されているので、ISO 及びエコアクション 21 これらの経営システムの教育・啓蒙活動を推進していく。